【小施策評価（平成30年度実績評価）】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策主管課等	学校教育課	
施策	17	子どもの教育の充実	評価責任者	小山田　秀次	内線 7330
小施策	17-4	教職員研修の充実	評価シート作成者	吉田　尚	内線 7332

小施策の概要

現状と課題（総合計画実施計画から転記）	⇨	取組の方向性（総合計画実施計画から転記）
学校の教育課題は年々複雑・多様化していることから，職能・経験年数や教育課題に応じた幅広い研修を実施し，教職員の資質や指導力の向上を図る必要がある。		日々の教育実践に必要な教職専門職としての研修を行い，教職員の資質や指導力の向上に努め，教育の質的向上を図る。
対象（誰（何）を対象として行うのか）	⇨	**意図（具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態）**
教員		誠実公正でかつ指導力が向上されている。

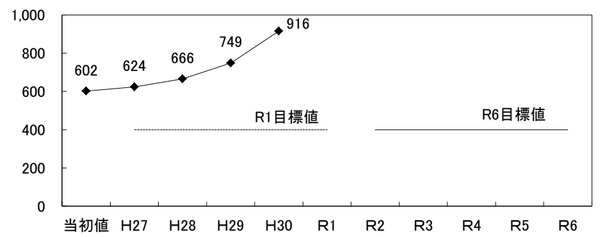
小施策の成果指標の達成状況・評価（平成30年度実績）

実績値の推移

指標① 教育研究所公開講座参加者数

単位	目指す方向
ポイント	→

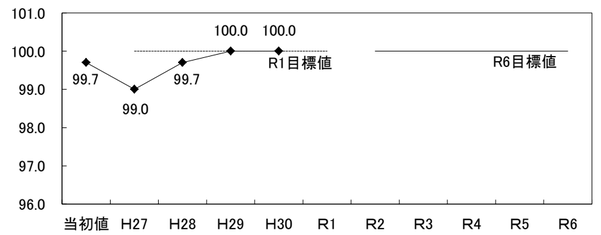
当初値（H25）	602	R1目標値	400	R6目標値	400



指標② 公開講座参加者の満足度

単位	目指す方向
ポイント	→

当初値（H25）	99.7	R1目標値	100.0	R6目標値	100.0



実績の評価

成果点	⇨	成果の要因分析
公開講座の参加人数は年々増加している。すでに目標値を上回っている。		夏・冬の公開講座と研究発表大会のうち，必ず1回は参加するよう各学校へ呼びかけを行ったこと。
問題点	⇨	**問題の要因分析**
参加人数は増えているが，長期休業中の開催に，学校から負担が大きいとの声も寄せられている。		県，教育事務所，他団体の教員研修と時期が重複している。あるいは非常に近い日程で実施されている。また，中学校は冬季休業期間が短く，参加することに対する負担感が大きいこと。

成果点	⇨	成果の要因分析
満足度（4段階評価のうち3と4）は高い状態が続いている。		公開講座の内容をアンケート等による教職員のニーズ把握をした上で設定したこと。
問題点	⇨	**問題の要因分析**
満足の内容（評価の根拠）までは把握が十分でない。		アンケートの手法について，H30はニーズ把握に重点を置きアンケートを実施したため，その根拠の把握は不十分であった。

今後の方向性（令和元年度以降）

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
★　公開講座について，夏と冬に開催としていたものを，夏のみの開催に変更する。 （回数減としたことにより，目標値を減少した。）	
★　今後，より質の高い研修を行うためには，参加者の満足の内容も可能な限り把握したい。アンケートの方法について吟味する。	